

# 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第232号	氏名	三嶋 志穂
学位審査委員	主査 松山 俊文 副査 江口 勝美 副査 兼松 隆之		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>自己免疫性肝炎 (autoimmune hepatitis: AIH) は女性に多く検査所見で抗核抗体をはじめとする自己抗体の陽性所見が特徴的な慢性肝疾患であるが、時として原発性胆汁性肝硬変 (primary biliary cirrhosis: PBC) にみられる抗ミトコンドリア抗体 (antimitochondrial antibody: AMA) 陽性所見や特徴的な胆管病変が見られることが報告されている。この研究では AIH における AMA や PBC に見られる胆管病変が AIH の臨床所見や経過にどのような影響を与えているかを検討しようとしたものであり、目的は十分妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>対象は全例治療前に肝生検が施行され国際自己免疫性肝炎研究グループの提唱する診断基準で definite AIH と診断された患者 20 名である。肝機能検査に加え、AMA については免疫蛍光抗体法、ELISA、免疫ブロット法が用いられた。PBC に伴う胆管病変として慢性非化膿性破壊性胆管炎や胆管消失の有無についての検討がなされた。これらの研究手法は目的に沿った妥当なものである。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>本研究から PBC で見られる AMA や胆管病変は AIH でもかなりの頻度で見られるが AIH の臨床所見や臨床経過には影響がないことが明らかになった。これらの研究成果は現在難治性とされている AIH の病態の解明に新たな知見を与えたものであり今後の発展が大いに期待できる。審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			